

INTERVIEW

デビュー20周年の記念の年に贈る じっくりと磨き抜かれた小品の花束 磯絵里子 「ヴァイオリン」

ききて・文・山野雄大
写真・青柳聡



じつにいい音。磯絵里子の新アルバム『エスプレッシーヴォ』は、小品集の楽しみをたっぷりしかり魅せてくれる美音の花束。よく知られた小品たちでこれほどの説得力を響かせてくれるというのも、音楽家としての成熟なくしてあり得ない話だが……磯絵里子デビュー20周年、節目に素敵なお話を伺った。てくれた彼女にこれをお話を伺った。

弾き込んできた小品たちを満を持して録音に残す

「今回のアルバムのコンセプトとしては、ヴァイオリンとピアノの曲に関しては、いろいろなところで頻繁に演奏しているけれども録音していなかった曲を集めました」

實川風（じつかわ・かおる）のピアノと共演したデュオ作品が16曲、それに加えて神谷未穂と組んでいる従姉妹同士のヴァイオリン二重奏のユニット「デュオ・プリマ」による演奏が2曲（うち1曲はピアノも加わる）。それにしても、ずい

ぶん有名な小品たちを録音せずに残していたものだが……。

「自分でも『今まで《愛の挨拶》録れてなかったんだ！』ってびびくりしました（笑）。皆さまが耳馴染みの小品を録音するということは、やはり怖さのようなものがあります。こうした小品を、ソナタやコンチェルトに比べて下に見ることもいらっしやるでしょうか？ そんなことはないのに。小品には小品の難しさというものがすごくある、ということも常日頃

から訴えたいと思ってるんです（笑）

実際、耳にすっと心地良く聴けるこうした小品の数々、これをきっちり仕上げた芸術的に聴かせ、かつ素直に楽しませてくれる……という演奏は、聴き手の思以上の緻密な練習を要求されるものだ。本当に巧い人だからこそ小品はおもしろい、という例は、私たちが過去の巨匠たちの銘盤でよく知るところ。だからこそ、磯絵里子の堂々たる挑戦がもつ重みと、その晴れやかな成果にはより強め

の拍手をお贈りしたい。

「こうした小品ばかりでアルバムを編むというのは、言ってみればショートショートや短篇で本を編むようなもので、ひとつひとつのクオリティを高くしないといけませんし、さらに、すべてが真っ白ではつまらないですから、いろいろなカラーを持った宝石箱のようにあってほしい……。どれをつまんでもおいしく感じていただけるようにアルバムを創りたい、と思ったんです」

その例えを受けて言えば、今回の小品集、どれを取っても薄味ならぬしつかりと味の濃い演奏で、よく知っているつもりで小品ひとつひとつ、あらためておいしさを味わい直すような楽しみがある。「ありがたうございます（笑）。弾き込んできた作品ばかり、というのもあるかもしれません」と言いつつ磯は、小品ならではのやり甲斐と難しさをあらためて語ってくれる。

すばらしい共演者たちと表現を磨き込む

「小品には、2、3分という短いなかで物語を構築する」という難しさがまずあるわけですが、それとはべつに、たとえばソナタはピアノととの対話であって、どうあがいてもピアノとの比重が大きい。「ここは和声の変化に合わせてこう弾きたい」と頑張っても、ヴァイオリニストだけがそう考えたところで思ったほどの変化はつかないものです。ところが小品は、ヴァイオリンがメロディ

を取っていてピアノが支えてくれる、というパターンがどうしても多いですから、ヴァイオリンの歌い回しが非常に重要。乱暴な言い方になりますが、自分がフロントマンとなって演奏が濃くなる、というところはあります。それぞれの曲で難しさも違ってきますが……」

たとえば今回のアルバムでは？
「大好きなだけ音程が取りにくいのは、プーランクの《エディット・ピアフを讀んで》と《愛の小径》。両方ともオリジナル曲ではない、というのがあるかも知れませんがね。技術的な難しさというところもクライスマー《中国の太鼓》。そういうえはレコーディングのマイク・テスト中に、ピアノの實川君が『じゃあ派手めの曲を弾きましょうか』ってチャイコフスキーの《ワルツ・スケルツォ》を弾き始めたんです。しばらくして私が『この曲、疲れるからやめよう』って。では、とフアリヤ《スペイン舞曲》を弾き始めたら、今度は實川君が疲れちゃった（笑）。お互いに感じる派手さが違う（笑）。ち

なみにクライスマー編曲は、ヴァイオリニストにはいいのですが、ピアノには弾きにくいらしいですね。しかし實川君はすばらしいピアノリストで、ソロはもちろんアンサンブルにも長けていらっしやうって」

さらに「20周年ということで、これまで弾いてきた小品を、共演したことのない實川君と録る、というアルバムになっているわけですが、もうひとつ、いままで通ってきた道を代表するというところで、親族でもある神谷未穂に登場を願いました（笑）」

従姉妹同士の二重奏「デュオ・プリマ」による2曲は、まずアルバム『トラヴィアータ・ファンタジー』にも収録されていたルロイ・アンダーソン（山田武彦編）《舞踏会の美女》。

「實川君は、前回録音の山田武彦さんとはまた違うアプローチをしてくださっているんで、聴き比べていただくとおもしろいと思いますよ。神谷もコンサートマスターを務めるようになってから演奏も

変わりましたし、楽器の関係もあってデュオを弾いていても二人の音質が似てきた気がします。昔から同じ音楽言語だったので、相変わらず逢えば座りの良い二人ですが」

その相性はピアノなし、デュオ・プリマの二人だけによるモーツァルト（玉木宏樹/デュオ・プリマ編）《トルコ行進曲》でお聴きいただきたい。

「今回のレコーディングでもおもしろかったことがあって、エンジニアさんの提案で、私は客席からみてピアノの後ろに立って弾いているんです。コンサートではあり得ないので、へー！と思ってやってみたら、ピアノの音がダイレクトにこないのにピアノととのコンタクトも取りやすいし、弾きやすかったです」

お聴きになって、その立ち位置の効果はおわかりになるだろうか？
「もうひとつ、曲によって弓を2本使い分けているんです。弓を飛ばす箇所が多い曲は今まで使ってきた弓で、もう1本は借りていた弓なのですが、柔らかい

小品ばかりでアルバムを編むというのは、ショートショートや短篇で本を編むようなもので、ひとつひとつのクオリティを高くしないといけない。さらに、すべてが真っ白ではつまらないですから、いろいろなカラーを持った宝石箱のようであってほしい。



先取り!最新盤レビュー

来月号「新譜月評」に登場するディスクから注目の海外盤、復刻・再発売盤まで、**要チェック・アイテムの数々を先行紹介!!**



P84-85	1	相場ひろ	シューマン/交響曲全集,ブルックナー:交響曲第5番(原典版),ショスタコーヴィチ:交響曲第10番,同第11番(1905年) スクロヴァチェフスキ指揮 読売日本SO [デンオン] (発売中)
P86	2	鈴木淳史	サン=サーンス:交響曲第3番《オルガン付き》,組曲《動物の謝肉祭》 パツパノ(指揮,p) ローマ聖チェチーリア音楽院o,アルゲリッチ(p) [ワーナー・クラシックス] (10月25日発売)
P87	3	相場ひろ	チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》 クルレンツィス指揮 ムジカエテルナ [ソニー・クラシカル] (11月1日発売)
P88	4	山崎浩太郎	ブルックナー:交響曲第5番(ノーヴァク版) ノット指揮 東響SO [EXTON] (発売中)
P89	5	西村 祐	ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第1番,交響曲第1番 アルゲリッチ(p),小澤征爾指揮 水戸室内o [デッカ] (発売中)
P90	6	遠山菜穂美	ショパン:ピアノ協奏曲第1番,同第2番,シューベルト:ピアノ五重奏曲《ます》※ トリフォノフ(p)プレトニョフ指揮 マラー室内o,ムター(vn)※ [グラモフォン] (発売中,11月15日※)
P91	7	増田良介	ショパン/夜想曲集,サイ:チェロ・ソナタ《4つの街》,他 サイ(p)アルトシュテット(vc) [avexクラシックス] (10月25日発売)
P92	8	西村 祐	アンサンブル・ウィーン=ベルリン/ライヴ! Ensウィーン=ベルリン [フォンテック] (発売中)
P93	9	安田和信	グランドィッシマ・グラヴィタ~18世紀のヴァイオリン・ソナタ集 ボツジャー(vn)プレコン・パロック [チャンネルクラシックス] (発売中)
P94	10	矢澤孝樹	無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&バルティータ 全曲 若松夏美(vn) [アルテ・デラルコ] (発売中)
P95		近藤憲一	New Disc Collection
P96		吉井重彦	Close-Up Reissue ×ロス弦楽四重奏団の芸術



エスプレッシーヴォ
[ブラームス: F.A.E. ソナタ
〜スケルツォ、エルガー:
愛の挨拶、パガニーニ:
カンタービレ、ラフマニノフ:
ヴォカリーズ、ホイベル
ガー:真夜中の鐘、R=コル
サコフ:熊蜂の飛行、チャ
イコフスキー:感傷的なワ
ルツ、アンダーソン:舞踏
会の美女、フーランク:即興曲
第15番《エディット・ピアフを
讃えて》、同:愛の小径、シャミナー
ド:スペインのセレナーデ、クラ
イスラー:中国の太鼓、同:ロン
ディノ、同:シンコペーション、
ファリャ:スペイン舞曲、ショパ
ン:夜想曲第20番、モーツァルト:
トルコ行進曲;チャイコフスキー:
ワルツ・スケルツォ)
磯絵里子(vn) 實川風(p) 神谷未穂
(vn)
〈録音:2017年8月〉
[ART INFINI © MECO1044]
CD&SACD



ロンド〜珠玉のヴァイオリン名曲集
[新垣隆:ロンド、同:哀しい鳥、
エルガー:朝の歌、ボンセ:エス
トレリータ、他]
磯絵里子(vn) 新垣隆(p)
〈録音:2014年12月〉
[ART INFINI © MECO1027] CD
&SACD



デュオイズム
[プロコフィエフ:2つのヴァイ
オリンのためのソナタ、バルト
ーク:ルーマニア民俗舞曲、他]
デュオ・プリマ(磯絵里子、神谷
未穂(vn)) 他
〈録音:2011年2月〉
[ART INFINI © MECO1007] CD
&SACD



水の薫り
[ルクレーレ:トリオ・ソナタ
Op.2-8、キュイ:オリエンタル、
他]
アキラ・トリニティ(磯絵里子(vn)
水谷川優子(vc)水家敦子(cemb))
〈録音:2010年7月〉
[ART INFINI © MECO1004] CD
&SACD



ルクー:ヴァイオリン・ソナタ、
フランク 同、イザイ:子供の夢
磯絵里子(vn) 岡田将(p)
〈録音:2009年3月〉
[EXTON © OVCL00395]

音色を気に入って——結局買いまし
た(笑)——それは《愛の挨拶》のよう
な曲に使いました。ただ、どの曲でど
ちらを使ったかは自分でも忘れてしま
ったので、訊かれてもわかりません(笑)
ステージで共演する
名匠とのブラームス



Eriko Iso
桐朋学園大学卒業後、イーゴリ・オイス
トラフの招きにより文化庁芸術家在外派遣
研修員としてブリュッセル王立音楽院に留
学、修士課程大賞を受賞し首席修了。マリ
ア・カナルス国際コンクール他、国内外
のコンクールで入賞。世界各地でリサイ
タルを行なう他、ソリストとして日本フィル、
東京フィル、名古屋フィル、チェコ・フィル、
フランダース放送響などと共演。宮崎国
際音楽祭へは毎年参加している。ソロ活
動に加え、従妹である神谷未穂とのヴァ
イオリン・デュオ「デュオ・プリマ」や、宮
谷理香(ピアノ)、水谷川優子(チェロ)と
の「Ensemblep(ファイ)」など室内楽に
も積極的に取り組む。アウトリーチ活動に
も力を入れている。地域創造公共ホール
活性化支援事業登録アーティスト。2010
年よりFMヨコハマ「SEASIDE CLASSIC」
のパーソナリティ。洗足学園音楽大学講師
として後進の指導にもあたっている。

トをするのが初めてなんです。ブラーム
スは10代、20代の頃から折に触れて演奏
していたのですが、あまり弾かずに寝か
せてきた作曲家です。ブラームスは江藤
(俊哉)先生や(イーゴリ・)オイス
トラフ先生にもかなり密にレッスンを受け
てきていて、もちろん(その指導を書き
込んだ)譜面はあるけれど、それを一度
取り払ったうえで自分がどう弾きたい
か、自分のブラームスというものを構築
したいな、と思っただけです。弾いたう

え、あとでお二人の譜面を見る楽しさを
とっておく(笑)。しかも10代の頃は一
音一音に手書きで注意を書き込んでい
て、昔の自分にも出逢える(笑)。
今となっては、両巨匠の指導を克明に
書き残した譜面も貴重ではある。
「昔の先生はフィンガリングもボウイン
グもこの通りにやるように、とおっしゃ
っていて、当時は『そこまで?』って思
っていたんですけども……。今の私も
お二人と違う考えができるようになって

いるんだな、と楽譜を見ると感慨深いも
のはあります。私はなるべく元の譜面の
通りに弾きたいな、というモードになっ
ているのですが、先生方が弓をガンガン
変えていたのを懐かしく思い出したり:
それがそれでまた聴かせてしまうので
すが」

ブラームス以外でも、フーランクのソ
ナタ、ドビュッシーやラヴェル、ストラ
ヴィンスキーの《イタリヤ組曲》などい
つか録音できたらいいですね……。とあれ
これ夢も伺いつつ、「いろいろな活動を
してきた、そのひとつひとつが樹の枝で
あるとしたら、それぞれをさらに太くし
ていきたい……という思いはつねにあり
ます。20周年を迎えて、中堅だからこそ
できることにも取り組んでいきたいと思
います。それから、いろんな編成のアン
サンブルもやっていきたいですね」
宮谷理香のピアノ、水谷川優子のチェ
ロと組んでいるピアノ・トリオ「アンサ
ンブルゆ(ファイ)」をはじめ室内楽に
も積極的な磯絵里子。さらなる活躍にも
期待しよう。

<公演情報>
■デビュー20周年記念リサイタル
ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ全曲
共演:練木繁夫(p)
◎11月13日(月) 19:00 東京文化会
館(小)
問い合わせ先 03-3264-0244
◎11月18日(土) 14:00 サントミュー
ゼ(上田市交流文化芸術センター)
問い合わせ先 0268-27-2000
■「エスプレッシーヴォ」発売記念ラン
チタイムコンサート
◎12月6日(水) 12:15 銀座山野楽
器 本店 7F イベントスペース JamSpot
問い合わせ先 03-3562-5051(代)
■磯絵里子(vn) & 實川風(p) デュオ・リ
サイタル
◎2018年1月13日(土) 14:00 ペー
ゼンドルファー東京展示サロン
問い合わせ先 03-6681-5189